ダルニー通信

69
2013
春号

民際力でメコンの子どもたちに教育を
25 Anniversary
SINCE 1987

特集

日本への輸出品と ダルニー奨学生の関係

- 富士通ユニティ労働組合によるラオス支援活動の10年
- 書き損じハガキで支援する企業 株式会社 資生堂
- ラオス研修旅行に参加した山梨英和高校生の感想

タイ・カンボジア・ラオスから

日本への輸出品とダルニー奨学生の関係

～ 奨学生との見えない関係を見る ～

日本は東南アジアからたくさんのものを輸入しています。コンピューター部品、原油、縫製品、天然ゴム、水産物、農産物…。輸入額で見ると、タイからの輸入額約1兆9,500億円、カンボジア約182億円、ラオス約38億円（いずれも2010年）でタイからの輸入額が突出していますが、低賃金と勤勉さに加え、社会インフラの整備が進み、カンボジアやラオスへの投資も増加傾向で、今後、この両国からの輸入が増えてくると予想されます。本号では、これら3国からの輸出製品が作られている現場で働くダルニー奨学生やその家族について報告します。

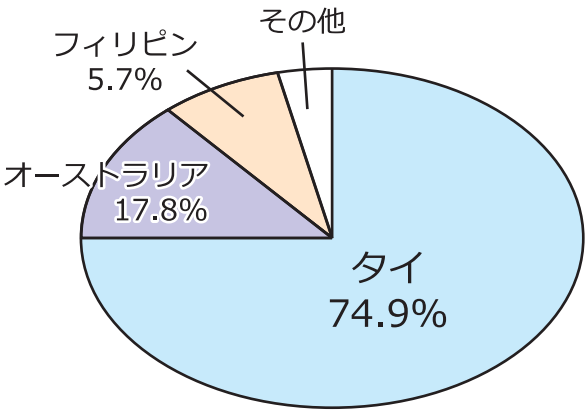
タイ

皆さんが使っている砂糖はひょっとしてダルニー奨学生が刈ったサトウキビから生産されたものかも…

日本の砂糖は約7割が輸入されているのをご存知でしたか？そして、その4分の3がタイから輸入されています（2010年）。しかも、タイ東北地方はサトウキビ生産のメッカなのです。こうしたサトウキビ畑で働くダルニー奨学生を紹介します。

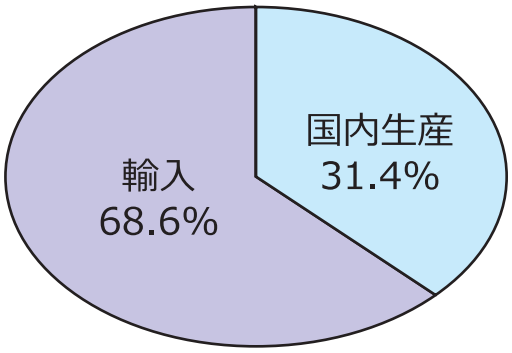
原料糖の輸入元

2010年



砂糖の国内生産量と輸入の割合

2010年 総供給量　208.6万トン



サトウキビ畑で働くビン（右）

中３のビンは学校が終わると、家から10キロ離れたサトウキビ畑に行って働きます。４時から8時までサトウキビを刈り取り、それを束にして運搬車まで運ぶという作業を繰り返します。1日の賃金は約700円。そして週末にもお母さんと一緒にサトウキビ畑に出かけ、一日中働きます。週末は1トン約700円の出来高払いで、土日の2日間働いて2,800～3,500円稼ぎます。家族の生活のために毎日働きたいのですが、週末と時々平日に4時間働いてクタクタになってしまい、毎日働くことはできません。

ビンの家族は、両親、妹、祖父母、祖々父母の6人です。両親は畑を所有していないため、お父さんが農作業をして賃金を稼ぎます（お母さんは介護や家事があるため、週末にビンと働くだけです）。祖々父母と祖父には政府から月約1,400円の年金が出ます（祖母は60歳に満たないのでまだ出ていません）。しかし、お父さんの収入とわずかな年金で生活していくのは困難なので、ビンが働いて家族の収入を支えなければなりません。

ビンは自動車に興味があり、自動車のエンジニアになることが夢です。そのために一生懸命勉強しなければ、と思っていますが、学校の予習復習の時間はまったくありません。疲れていてもカラダが重くても、今は生活のために必死にサトウキビを刈る――ビンの生活のための戦いは今日も続いています。

カンボジア　靴工場労働者のソビンのお母さんの心配

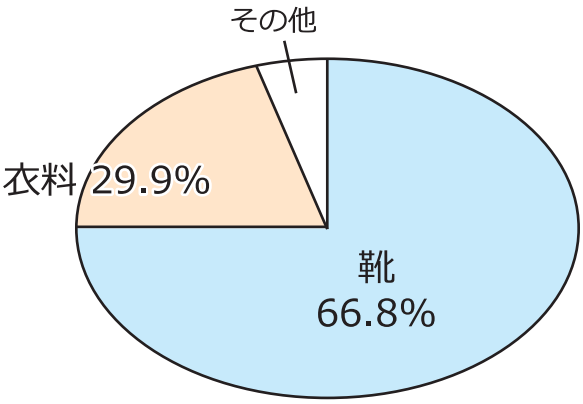
ソビン

カンボジアの2002年～2011年の年間経済平均成成長率は7.7％を記録しました。カンボジアからの対日輸入総額は182億円（2010年）と少額ですが、2011年の日本からの直接投資額は前年に比べ3,500万ドルから7,500万ドルへと2倍以上に増えました。その成長を牽引するのが靴と縫製品の輸出です。日本の靴輸入は中国が突出していますが、2011年にカンボジアの靴輸入額が倍増し5番目になりました。首都プノンペンの周辺に靴工場や縫製工場が林立し、たくさんの女性が働いています。奨学生ソビンのお母さんもその一人です。

ソビンの家族

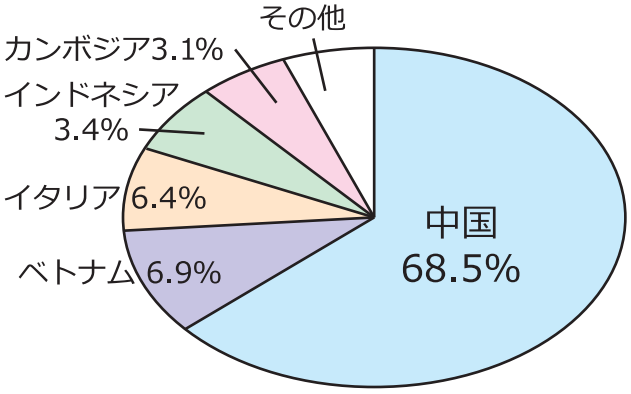
カンボジアの対日輸出の割合

2010年対日輸出額182 億円



靴の輸入元

2011年対日輸出金額　4,046億5,600万円



工場に通う女性労働者たち（左）

ソビンのお母さんは靴工場で働いています。週6回、1日10時間働いて月給は65～70ドルです。トラックでの通勤時間は片道1時間。毎朝5時半～6時半の間に家を出て、夜8時に帰宅します。正規の勤務時間は8時間ですが、収入を増やすために毎日2時間残業をします。

ソビンの家はお母さんと子ども4人の5人家族です。お母さんが5人家族を支えるために働かなければなりません。「家族5人が生活するには、もっと収入が必要ですが、小学校を卒業していない私はこれが精一杯です。長女のソビンは私の代わりに毎日、家事をしてくれます。さらに週末や休みに近隣の農作業の仕事を手伝って、金額は小さいのですが、家計の足しにしてくれます。しかしそれでも足りなければ、親戚や近隣から借金をします」。

ソビンは忙しい毎日を送っています。朝早く起きてきょうだいの面倒を見ながら、家族の朝食の準備をし、掃除・洗濯などをしてから学校に行きます。帰宅してからも掃除・洗濯・炊事・きょうだいの世話などをします。そして週末や夏休みには近隣の畑仕事を手伝って1日2ドルばかりの収入を得ます。

お母さんが一番恐れているのは、家族の誰かが病気をすることです。薬や治療費を出す余力がないのです。病気をしたら、食費等を削らなければなりません。「いつもお金不足でビクビクして生活しないように、ソビンにはできるだけ教育を受けてもらいたい。できたら技術を身につけて、安定した収入をえたほしい」。そのためにお母さんは歯を食いしばって働いています。ソビンも必死で学校に通っています。

ラオス　再婚して生活が少し安定したけれど…

ラオスから日本へ輸出している主な品目は衣類・付属品（手袋や帽子など）、はきもの、コーヒー、木材などですが、いずれも輸出額が他国に比べて極めて少ないため、それぞれの品目の輸出額や割合（%）を把握するのが困難です。例えば、日本の木材の輸入総額は9,160億円（2010年）ですが、ラオスからの木材輸入額は約2億400万円（0.2%）です。原木不足で輸出額も減少しています（森林の減少が進んでいるという報告もあります）。とはいえ、ラオスにおいて、森林加工業は雇用の上でそれなりに重要な意義を有しているようです。奨学生ケオカムのお父さんはカムアン県の製材所で働いています。

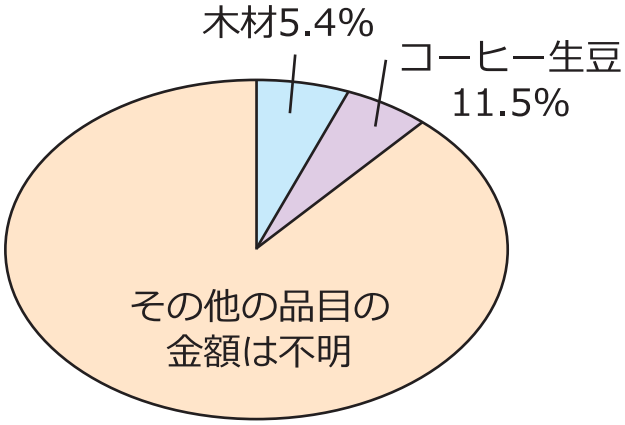
新しいお父さんは製材所で働いています。といっても正社員ではなく、出来高払いの日雇い労働ですが、それでも仕事があれば月約6,500円の収入があります。

お母さんは小学校を卒業しておらず、お父さんは小学校卒業と同時に働き始めました。「だから、日雇いの仕事しかありません。私たちは一生懸命働いて、子どもたちにはできるだけ高い教育を受けさせ、安定した仕事を得てもらいたいと思っています」。両親の期待を受けてベオカムも一生懸命勉強しています。長男なので家事を手伝いなので、先生になりたいという夢を実現するため、毎日学校に通っています。

カムアン県のターケック市の近くに住むベオカムは小学校の４年生。3人きょうだいの長男で、両親は離婚して、お母さんと暮らしていましたが、再婚して新しいお父さんを迎えました。田畑を持っていないので、再婚するまでお母さんが農作業の日雇い労働をしていました。定期的な仕事ではないため、収入が不安定で４人の生活はカツカツでしたが、再婚して少し生活が楽になりました。

ラオスの対日輸出の割合

2010年の対日輸出額38億円



カンボジア

中学校支援開始のご案内

今までのカンボジアのダルニー奨学金は小学4年～6年生までの3年間の支援で終わりでしたが、2013年度より、現在、小学校6年生をご支援されている方は、その奨学生が中学校を卒業するまで、さらに3年間ご支援することができるようになりました！
カンボジアの中学生支援をご希望の方は、振込用紙に「カンボジア中学生」、「支援タイプ」、「支援人数」をお書きの上、お振込みお願い致します。

従来の制度

支援対象：小学4～6年生までの3年間

奨学金タイプと金額：
- Aタイプ（3年間一括、3万円）
- Bタイプ（3年間分割、1万円）
- Cタイプ（1年のみ、1万円）

新しい制度

支援対象：小学4～6年生までの3年間
中学1～3年生までの3年間

奨学金タイプと金額：
- Aタイプ（3年間一括、3万円）
- Bタイプ（3年間分割、1万円）
- Cタイプ（1年のみ、1万円）

＊締切（毎年7月20日）、進級進学（10月）、報告時期（毎年12月）は同じです。
＊最長6年間の支援が可能になりました
＊A、Bタイプのみ中学生の継続支援が可能です
＊支援されていた中学生が転校、退学等で変更になった場合は、違う中学生に振り替えさせて頂きます。

ラオス

中学校制度変更のお知らせ

2010年度より、ラオスの中学校が今までの3年制から4年制に変更になっております。民際センターといたしましては皆様がご支援されていた中学3年生が4年生に進級できるよう対応してまいりましたが、ようやく中学4年間の支援ができるよう体制が整いました。

従来の制度

支援対象：中学1～3年生までの3年間

奨学金タイプと金額：
- Aタイプ（3年間一括、3万円）
- Bタイプ（3年間分割、1万円）
- Cタイプ（1年のみ、1万円）

新しい制度

支援対象：中学1～4年生までの4年間

奨学金タイプと金額：
- Aタイプ（4年間一括、4万円）
- Bタイプ（4年間分割、1万円）
- Cタイプ（1年のみ、1万円）

＊最長7年間の支援が可能になりました
＊締切（毎年7月20日）、進級進学（10月）、報告時期（毎年12月）は同じです。

2013年度ラオス中学生のお振込みがお済みの方

Aタイプ(3万円)でお振込みの方は、3年間で支援終了です。ご引き続き中学4年生のご支援を希望される方は、中学3年生の報告が届きましたら、「中学4年生希望」とお書きの上、お申込みください。3年分割のBタイプでお振込みの方は、4年分割のBタイプへ変更になります。なお、4年目の支援は任意となりますので、ご希望の方のみお振込みください。

労組結成20周年を迎えた**富士通ユニティ労働組合**による

ラオス支援活動 10年間の取り組み

田中委員長が支援する奨学生と一緒に

支援実績	奨学金：3,212万円 校舎建設：2校 保健衛生プロジェクト：80万円

＊建設した校舎2校を拠点に交流＊

富士通ユニティ労働組合中央執行委員長　田中光雄

「ラオス教育支援の運動は、2002年の労組結成10周年記念に、構成企業の富士通エフサスとトータリゼータエンジニアリング両社の協力を得て、経営幹部を含めた全社員に呼びかけ多くの支援金を集め始めました。取り組み内容はシェルターとしての学校建設支援、奨学金支援、学校の寄贈式に併せてのスタディツアーなどを実施しています」

富士通ユニティの支援活動沿革史

2002
- 労組結成10周年を記念してカムアン県にラマラー校を建設。約40名で贈呈式に参加。

2003
- 2校目となるセコーン県ピアマイ校を建設。20数名で寄贈式に参加。ラマラー村を訪問。

2005
- 第3回ラオススタディツアーを実施。ラマラー村で民泊。

2006
- ラマラー、ピアマイ両校の保険衛生プロジェクトを支援、視察実施。

2007
- 第4回ラオススタディツアー実施。ピアマイ村で民泊。

2009
- 第5回ラオススタディツアー。ラマラー村で民泊。

2011
- 翌年の労組結成20周年記念ラオススタディツアーに向けた視察を実施。

2012
- 労組結成20周年記念第6回ラオススタディツアー実施。ラマラー、ピアマイ両村で民泊。ラオス教育体育省から労働勲章を授与。

カムアン県 ラマラー校

教師数：6人（女性5人）
生徒数：166人
ラマラー村の人口：953人

ラマラー校　ブンペン校長

校舎が完成して生徒も先生も学校に来るのが楽しくなりました。勉強やその他の面で生徒の向上も顕著です。奨学金のご支援で経済的に恵まれない生徒が安心して学校に通うことができます。ご支援を心より感謝しています。

セコーン県 ピアマイ校

教師数：15人（女性7名）
生徒数：332人
ピアマイ村の人口：2,796人

ピアマイ校　カムバイ校長

校舎建設で生徒の学習意欲は大いに上がりました。奨学金でたくさんの子どもが義務教育を終えました。それ以外のたくさんのご支援も、生徒が勉強する励みになっています。本当にありがとうございます。お礼にふさわしい言葉が見つかりません。

校庭で子どもたちと交流

河野さんが支援する奨学生と

踊りを披露してくれた子どもと三河さん

村で子どもたちと交流

富士通ユニティ　国際部長　三河春香

「ラオスの教育事情や、奨学生の生活環境を組合員に知ってもらうことを目的にツアーを実施しています。参加者は、貧しい生活にあっても夢を持って勉学に励む児童たちと触れ合う中で、教育支援への理解を深めています」

富士通ユニティ　河野実

「ツアーの民泊や交流会を通し支援をしている子供たちや村の方々と直接、触れ合えて、支援に喜んで下さっているのを実感できるのが最大の魅力であり、毎回参加する理由です。支援も10年を迎え新たな気持ちでこれからも更に支援していきます」

教育省から勲章授与

富士通エフサス、トータリゼータエンジニアリングと共同で行った学校建設、奨学金支援などの教育支援に対して、ラオス教育体育省から労働勲章が授与されました。そして昨年11月にラオスを訪問した田中委員長がラオス教育体育省主催で行われた授与式に出席し、同省のパンカム・ビパワン大臣から労働勲章を贈呈されました。（写真左）

富士通ユニティ労働組合で支援した元奨学生の消息

元奨学生
ボンシ・ケオマニさん

「生活を良くしていくには教育はとても重要です」と考える20歳の学生、ボンシさんは両親だけではなく、お兄さんやお姉さんも学資を出してくれて、今年、サワンナケート県の教師養成大学を卒業し、教師になる予定です。ボンシさんの夢がようやく叶いそうです。「奨学金が私の背中を押して、なんとか学校に通い続けることができ、家族の家計も助かりました。ご支援を本当にありがとうございました。皆様の幸福と成功を願っています！」とお礼を述べました。

元奨学生
ケオマニコン・サイヤボンサさん

6人兄弟の末っ子であるケオマニコン君は2002年から小3～5の3年間、奨学金を得て小学校を卒業。今は高校で勉強しています。中学からは、両親が家畜を売ったり、菜園で育てた野菜を売ったりして、学資を工面しました。彼の夢は弁護士になって地元の発展の役に立つことと、国際貿易やビジネスを通じて外国の人々と交流すること。「僕を支援していただいて、ありがとうございました。今、僕があるのは、奨学金のおかげです。支援をしていただいた方のご多幸をお祈りしています」。

「一瞬も一生も美しく」をメッセージに 奨学生を支援

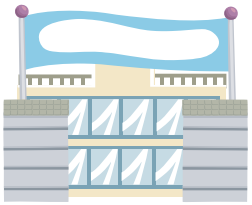
資生堂CSR部　中山朋彦

「一般財団法人 民際センター」様とのお付合いは10年以上前に遡ります。当時は㈱資生堂の各部門、国内グループ各社が各々に「書き損じ・未使用官製ハガキ」を収集してお送りしていました。2004年からは、社会貢献活動を推進するCSR部が窓口となり、資生堂労働組合の協力も得て「集めてボランティア」として全社的に推進。社員がデザインしたキャラクター「はっぴーちゃん」をあしらったオリジナルの回収箱も製作、全国事業所に配付するなど社内での浸透を図りました。

その後、ハガキの他、「テレホンカード」「商品券」なども収集対象品として現在に至っています。その間に36名のラオスの小学生就学を支援。また「資生堂ボランティア休暇制度」を利用した社員がオフィスに出向き、ボランティアとして民際センター様の業務をお手伝いする協働活動も行っています。

こうした一連の活動は、一人ひとりが社会との関わりの中で社会貢献に対して関心を持ち、資生堂社員として「良き企業市民」となることを目的としています。また、社会活動によって得られた気づきを社内に持ち帰ることで、業務の視点や質の向上につなげたいと考えています。

当社は、「一瞬も一生も美しく」という企業メッセージを発信しながら世界中の女性の美しい生き方を支援していきます。そのためには、化粧を通じた社会活動や次世代を見すえたアジア圏における初等教育支援は欠かせません。これからも設立25周年を迎えられた「民際センター」様の活動を微力ながら応援してまいります。



～員弁（いなべ）ライオンズクラブ35周年記念事業として～

子どもたち12名がラオスの学校を訪問

三重県・員弁ライオンズクラブ（出口紀幸会長）は昨年11月に結成35周年記念式典を開催、式典にはラオスを訪問した子ども達が招待されました。この子ども達は、周年事業のキャッチフレーズを“日本の子ども達をラオスに”と決めて募集、夏休みにラオス・カンボジア・タイを旅行した中学生12名（男子8名、女子4名）です。

員弁ライオンズクラブは30周年記念事業として、2009年にラオス中部のカムアン県カムハエ村に小学校を建設しました。この度の企画は、「ライオンズクラブ関係者以外の子ども達に、世界の子どもを見てもらおう、なにかを感じてもらおう」という趣旨で実施しました。

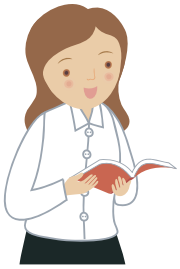
ラオスを訪れた子どもたち

式典では、参加した子ども達が感想やエピソードを披露しました。また、感想文集が配布されました。ラオスの子ども達とサッカーやバレーボールをして交流を深めたこと。またモノがなくて貧しいと思われがちだが、子ども達は明るく元気で、心は貧しくないと思つたなど、現地で子ども達が肌で感じた感想・実感が発表されました。次世代を担うこの子ども達が、この度の貴重な体験が将来に生きてくることでしょう。

ラオス少数民族教師養成プロジェクトのご案内

ラオスは49の民族で構成される多民族国家です。その多くは少数民族で、彼らは場所によっては電気もない、道路もない山間地域に住んでいるため、教師になることは難しいのが現状です。また、教師は公用語であるラオス語で教えるので、少数民族の言語を使用する子どもたちが授業を理解できず、低学年でドロップアウトしてしまうケースが少なくありません。このような状況を改善するため、民際センターでは、2004年から少数民族出身の教師を養成するプログラムを実施してきました。2年間、教師養成短大で勉強し教師免許を取得した奨学生達が、出身村の学校で教えています。

ドゥアン（写真左）も貧しい山間地域の少数民族出身で、民際センターの奨学金を受け2008年、同短大を卒業することができました。卒業後、彼女は出身の村に帰り、今は村の中学校の教頭を務めています。「残念ながら、多くの少数民族は教育レベルが低く、貧困に苦しんでいるので、教育に投資する余裕がありません。この地域で育ち地域の言語で教える教師の存在は子どもたちに夢を与えるロールモデルであり、少数民族地域の教育発展に大きな役割を果たします」と教師が子どもたちに与える影響について語ります。



※少数民族教師養成プロジェクトの支援をご希望の方は民際センター（志賀）までご連絡ください。

ラオス研修旅行に参加した山梨英和高等学校の生徒2人の感想

昨年の9月に実施した「H.I.S.民際センターラオス・小学校支援と支援活動7日間の旅」に山梨英和高等学校から生徒2人と先生1人が参加されました。同校は長年、ダルニー奨学金を支援していますが、支援だけではなく生徒を支援の現場に送り出し、奨学生の生活状況を見て考え、それを自らの成長の糧としてきました。今回参加した高校生の2人も現場でたくさんのことを学んだようです（なお本文は一部省略されています）。

日本では絶対にできない貴重な体験

権守志帆子

私はラオス研修に参加して、日本にいては、絶対にできない貴重な経験をして数多くのことを学ぶことが出来ました。中でも、二点について述べたいと思います。

まず1つ目は、「言葉が通じなくても心は通じる」ということです。ラオス語はこれまで学んだことがなく、果たして交流できるものだろうかと不安を抱えたまま、学校訪問の日を迎えました。学校につくと、通訳を通して語られる言葉以上に校長先生の表情や声から歓迎してくださっていることが伝わりました。また３日間、互いの気持ちが言葉を用いなくても分かり合えました。別れのときも同様で、別れを惜しむ気持ちや出会いに感謝する気持ちは強く伝わってきました。心をこめて対応すれば相手にその気持ちはきちんと伝わることを知りました。2つ目は、ラオスの人々のすばらしさです。互いに協力し合って暮らし、いつも笑顔を絶やしませんでした。これらは、日本が経済的に豊かになった代わりに失ってしまったものです。ラオスに行き、人々の温かさに触れ、これらがいかに大切であるかを痛感しました。

教室で生徒と交流

最後にこの研修に参加するにあたり、私はたくさんの人びとに支えられていることに気づかされました。心配してくれた家族。私が不在中、授業のノートをとってくれるなど、応援してくれた友人達や先輩。励ましてくださった先生方。ひとりでもかけていたら、これほど充実したプログラムを体験することは出来ませんでした。

今まで自分の生まれ育った環境が恵まれていることは、頭ではわかっていましたが、どこかであたりまえに感じていました。しかし、ラオスに行き家庭事情で進学をあきらめざるを得ない子どもがいるという現状を目の当たりにした私は、学校で勉強が出来ることはとても幸せで感謝すべきことなのだと強く感じました。

「世界は共存して生きていく」ことに気がついた

金子　杏

奨学生の家庭訪問

ラオスの貧しい子どもたちのために、自分にできる事をしてあげよう。手洗い歌や歯磨きを教えて衛生環境を良くしたり、使えなくなった机やいすを直して使えるようにしたり、子どもたちとたくさん遊んだり。ラオスに旅立つ前の私は「してあげる」というおごりの気持ちがあった。今考えると恥ずかしい。

私がラオスでしてきたことの何十倍も、ラオスで学んできたことの方が多い。だから、今回のラオス研修は「私→ラオスの子どもたち」という関係ではなく、「私⇔ラオスの子どもたち」だったと思う。お金にゆとりのある国の人々が貧しい国の人々を援助するのは必要なことだと思う。でもそれでは一方通行で、ともに生きていくことにはならない。全世界の人々がともに生きていくこと(共存)が出来れば、多くの問題は解決に向かうだろう。

今回のラオス研修は私にそんなことを気づかせてくれた。だから、私がラオスの子どもたちを助けるのではなく、私とラオスの子どもたちが助けあうのだ。私は衛生環境を良くするため、手洗い歌や歯磨き歌を歌う。ラオスの子どもたちはそれにこたえて手洗いや歯磨きの習慣をつけるように努力する。小さなことかもしれないが、これも相手の立場に立ってともに生きていることになるのではないだろうか。私は一週間ラオスに行ったことにより、様々なことに気づかされた。今では「世界中が共存して生きていく」ことが大切で、それに物事を当てはめて考えるようになった。また、今回ラオスに行ったことで、自分が出来る事を共存しながらやっていきたい、という気持ちにもなってきた。私にできることはまだ少ないけれど、ラオスやその貧困に苦しむ国の人々のところに行き、相手の立場に立ってできる事をしていきたい、自分の将来がそんな風になったらいいな、と思う。私に気づきを与えてくれたラオスの子どもたちに、本当に感謝している。

タイ・ラオスの子どもたちについて1時間半の学習会

盛岡市立下橋中学校の生徒6名が修学旅行の一環で事務所を訪問

「一番心に残った言葉は『責任は無い。関係はある』という言葉です」──。
10月25日、書き損じハガキ等を集めてタイの中学生を支援している盛岡市立下橋中学校の2年生6名が修学旅行の一環として事務局を訪問。弊センターのスタッフが、同校が支援しているタイやラオスの子どもたちについて話をしました。

まず身近にあるコンビニの話から始めて、日本の食料廃棄物は年約2,200万トン（2004年）、食料の輸入は年約5,000万トン（2005年）。その一方で、栄養不足は世界で8億人(うち、子どもは3億人)もいるのに、食料輸入は750万トン（2007年）に過ぎない。頭に世界地図を描いて、こうした食料の流れの中に（流れの外ではなく）私たちが暮らしていて、その流れの中に飢えている子もいるということを理解してください ── という話をしました。そして3億人分の1として、タイとラオスの奨学生の個別具体的な例を一人ひとり紹介しました。

後日、生徒の皆さんから感想文が事務所に届きました。以下はその抜粋です。

「今回、訪問させて頂いて、一番心に残った言葉は『責任は無い。関係はある』という言葉です。正直言うと、今までは私一人が何かしたって何も変わらないだろうと思っていました。しかし今回、色々なお話を聞いたり、この言葉を聞いたことで、私にも関係があるし、出来ることがあることも知りました。少しずつでも、書き損じハガキを集めたり募金をしたりしていこうと思っています。そして周りにも呼びかけていきたいと思います。小さな力でも、集まれば大きな力になると信じています」「私が感じたことは、日本の食料の使い方です。約半分弱も食料を捨てていて、それらを貧しい地域に分ければ、今よりもっと世界中に幸せになると思います。しかし、今の日本は『自己中心的』といってもおかしくないと思います。とてももったいないことを平気でやっているのが、自分の生活している国だと思うとはずかしいと思いました。また、このように、世界の人々が幸せに生活するために活動している人もいる一方で、もったいないことをしている人もいる今の現状を変えていかなければならないと思います」

※民際センターでは、
ラオス・カンボジア・タイの経済的に恵まれない子どもの支援を考えている学校を対象に事務局で授業をしたり、出張授業をしたりしています。　お問い合わせは担当・冨田まで。

アーティストの日比野克彦氏がラオスの子どもたちに美術を指導

ポントゥン村美術部プロジェクト報告（2回目）

アーティストの日比野克彦氏の協力で、ラオスのポントゥン村の子どもたちにアートを経験する機会をつくろうというプロジェクトが一昨年に続いて開催され、昨年11月24日～30日に日比野先生を含む、プロジェクトメンバー（9名）がラオスを訪問しました。ポントゥン村でのワークショップは、26日と27日の2日間にわたり開催されました。

ラオスでは、図画工作の授業はありません。絵も画材もないために、ほとんどの子どもが水彩画の絵を描いたことがありません。ワークショップは日比野先生の指導に従って、先ずは下書きから始めました。2人1組になり、お互いの顔を書きます（写真下）。下書き終了後、日比野先生から画材の使い方の指導を受け、色をつけます。先生の熱心な指導に、子どもたちも引き込まれ、みな一生懸命描きました。子どもたちがとても楽しそうに絵を描いている様子が印象的です。日比野先生の適切な指導、プロジェクトメンバーや現地の先生たちの積極的なサポートのおかげで、みな楽しく絵を書き終えることができました。初めて描いたとは想像できない絵がたくさんあます。その後、描いた絵を一枚ずつ木に貼り自然の中で展覧会を開きました。子どもたちは、自分の描いた絵と一緒に記念撮影をし、後に写真が子どもたちのもとへ届けられる予定です。

授業の最後に、これからもぜひ美術の授業を続けて欲しいというメンバー全員の願いにより、日比野先生から「次は担任の先生の顔を書いてください」という宿題が子どもたちへ出されました。絵を描く楽しさを学んだ、子どもたちの成長がとても楽しみです。世界を舞台に活躍する有名なアーティストが、このポントゥン村から育つことを期待します。また、ポントゥン村がアートに溢れ、アートの力で発展しくれることを願い、毎年、日比野先生のご協力によりポントゥン村を訪問しこのプロジェクトを実施していく予定です。

ポントゥン村美術部プロジェクトにご寄附くださった皆様

今回、無事第二回のワークショップを開催することが出来たのは、READYFORを通してご寄附くださった以下の方々のおかげによるものです。この場を借りて御礼申し上げます。ご協力くださった皆様ありがとうございました。今年は第三回のワークショップを計画しております。詳しい計画が決まりましたらまた皆様へご報告させていただきます。

（順不同、敬称略）

林　勲男
豊村佳苗
前田利充
衞藤　秀三郎
安田憲二
中村　麻紀
ココらくミュージック
松本　殊和
柳澤　光一
岩代孝之
野崎詩乃
高橋英徳
菅琢嗣
伊藤尚子
ふるかわともこ
谷口久樹
内田有紀
河野紘徳
山岡美子
宮本恵造
廣松　繁忠
小野澤　隆
片貝孝夫
鈴木光芳
小比賀　優子
赤石　隆夫
酒井順子
稲田寿美
泉山るみ子
西山優里子
二宮雅規
深沢　恵
白土美和
関谷　孝幸
野条　庄一
三好一美
釜澤安季子
花野瑞穂

READYFORとは：様々な「夢」を持った"実行者"を支援する日本初のクラウドファンディングです。「夢」を実行するための支援金をウェブサイト上で集めることができます。プロジェクトの目標金額が全額集まった場合のみ、その支援金を得ることができます。　ウェブサイト　https://readyfor.jp/

ダルニー通信が次号70号から変わります

各国の教育事業をより詳しく

理事長　秋尾晃正

私たちは教育に特化した国際協力団体です。たとえ子どもたちは最貧国に生まれても、家庭が貧困に喘いでいようとも、教育の機会を提供することで貧しさの連鎖を断ち切ることができます。教育こそが貧困削減の要であると確信しています。

また戦後、日本を含めた欧米先進国政府は巨額な金額を政府間レベルで援助してきましたが、世界の貧困は解決できず、先進国は財政赤字で四苦八苦しています。いかにして自立の促進を促すかが課題で、教育援助こそが、自立促進の基礎であると確信しています。

弊センターはタイの支援から始まり、タイの教育に関して情報を提供し、次にラオスの支援を開始し、ラオスの教育実情も提供してきました。昨年からベトナム、ミャンマーも支援の対象国となり、カンボジアも含めメコン5ヶ国の教育支援が対象国となりました。タイの豊かな社会の貧困層の子どもとラオスやカンボジアのような最貧国の貧しい子ども。いったいどこの国の子どもに教育支援を行うべきか迷うことがしばしばあります。メコン5ヶ国の教育支援に特化した国際協力団体は世界でも少ないと思います。それで今後、各国の事務所を通して、各国の教育事情をより体系的に提供し、その情報を蓄積することで、メコン5ヶ国の教育事情を比較することができると思います。そして、読者の方々がより深く5ヶ国の教育に精通していただけることを期待しています。

過去25年間、奨学金額の変更がありませんでした。インフレもあり、各国の教育費にかかる使用も、果たしてこれでよいのかという疑問もあります。次回70号では実際に教育費がどのくらいかかるのか、各国の事務所が情報を集め、それを記事にします。その後、各国の教育制度や抱えている課題等を5ヶ国同じテーマで調査し、各国に原稿を書いてもらう方針です。その蓄積が、教育支援の重要性、効率性、必要性を喚起できれば幸いと思います。

サポーターズNOW！

ドナー連絡会「ほほえみの会」が都留市社会福祉協議会より表彰状

山梨県でダルニー奨学金の普及活動をする「ほほえみの会」が都留市社会福祉協議会よりそのボランティア活動が評価されて表彰され、世話人の渡辺幸男氏が「いきいきプラザ都留」で行われた授賞式に出席しました。

今回の受賞は「ほほえみの会」が同市主催の「ボランティア祭」に毎年参加してパネル展示や物品販売をしたり、市内の小学校などで民際センタースタッフが授業をする窓口になったりしたことが評価されたとのことです。この他、渡辺氏は市内に募金箱を置いたり、インクカートリッジなどを集めたりして奨学生を支援しています。

佐久平ダルニー連絡会の柳澤さんが佐久市の学習会で講演

昨年12月1日、男女共同参画パートナーシップ佐久の国際教育学習会で「教育支援から見るアジアの子供たち」と題した講演をし、ダルニー奨学金の紹介と仕事で赴任した国々の女性の社会進出や仕事への係わり方などをお話しました。タイの元奨学生ポットさんの言葉「奨学金は、貧しいから、農民の子供だから、女性だからという理由だけで偏見を持つ人々に打ち勝つ勇気を与えてくれた」を紹介しつつ、教育の大切さと男女共同参画のありかたを参加者で考えました。私も参加者も教育が女性の社会進出と地位の向上に役立っている点を改めて感じ、「顔の見える支援ができるので私も支援したい」と振込用紙をお持ちになる方も。講演の状況はケーブルTVでも市民ニュースとして放映されました。（柳澤光一）

「第12回ダルニー奨学金ドナー全国大会 in 佐久」が開催されました

11月3日～4日、佐久市にて「第12回ダルニー奨学金ドナー全国大会in佐久」が開催されました。

佐久平ダルニー連絡会や佐久市内のドナーの参加の他、新潟、山梨、静岡、福岡、埼玉、東京などの各地からの参加の他、新潟の「新潟県事業創造大学院大学」に留学中のベトナム留学生の参加など、33名の参加者がありました。

各出席者からそれぞれの連絡会や個人の活動報告が熱く語られました。特にベトナム留学生は民族衣装のアオザイ姿で参加され、活動報告の他ベトナムの民謡を披露しベトナムへの奨学金提供への感謝と、ベトナムの将来に対する思いを語り支援に対する感謝の気持ちを表していました。2日目には民際センターから現在の事業に対する説明があり、「更なる発展のために何をすべきか！」参加者で熱い討議がありました。

懇親会では参加者それぞれが、ダルニー奨学金に対する思いを語り合い、熱い心のまま二次会に突入、佐久の地酒を飲み比べながらダルニーへの思いは深まっていきました。ダルニー奨学金を核とした絆の強さが深まった2日間でした。地方紙の取材もあり佐久市エリアでの広報活動もできました。来年は、新潟ダルニー連絡会が主幹し新潟県にて開催します。ドナーの皆さんの参加をお願いします。

（佐久平ダルニー連絡会世話人 柳澤光一）

事務局活用リスト

事務局ではさまざまな資料やサービスを用意して、ドナーの皆様のお問い合わせやご要望にお応えしています。

※ご利用につきましては、以下の要領でご連絡願います。

地域で奨学金や図書セットを広める活動をしたい

①書き損じハガキ・未使用テレカの収集
②パンフレットまたはリーフレットの設置
③不要な本を集めてブックオフに送る
④募金箱を設置したい

お気軽にお電話またはメールでお問い合わせください。折り返し資料などをお送りします。また、ホームページでも紹介しておりますので是非ご覧ください。

奨学生や現地のビデオを見たい

DVDは現地情報満載の広報ビデオ（13分）。パネルを貸し出すこともができます。送料は負担願います。

個人でタイを訪問し、奨学生に会いたい

80円切手を貼った返信用の封筒をお送りください（メール可）。折り返し、資料をお送りします　（3～5月と10月は学校がお休みのため訪問できません）。

タイの奨学生と文通したい

①手紙の翻訳
②タイの切手購入

①：タイ語→日本語に翻訳します。手紙の原本と80円切手4枚を同封して送ってください。
②：タイ切手セット（12回分1000円）の代金は郵便定額小為替か現金でお願いします。
　80円切手を貼った返信用の封筒も同封してください。
※奨学生の氏名をカタカナで読みたい方は、電話、メール、ファックスでお問い合わせ下さい。

民際事務局でボランティアをしたい

PC入力、DTP経験者、事務作業など。電話またはメールで担当、関口までお問い合わせください。

奨学金の説明を聞きたい

事務局では随時無料説明会を行っています。参加希望の方は必ずご予約ください。

タイの奨学生にプレゼントしたい

80円切手を貼った返信用の封筒をお送りください（メール可）。折り返し、資料をお送りします。申し込み締め切りは4月6日（金）です。プレゼントは原則として中学生が対象です。

毎年忘れずに送金したい

お申し込みいただければ、自動振込用紙（ゆうちょ銀行）を無料で送付します（タイのみ）。

編集後記

タイやラオスの農村に滞在して村人とともに数日間暮らして日本に帰ってくると、帰国当初、日本の人間関係がヒンヤリしていると感じることがあります。ある本でこんな話を読んだことがあります。動物に餌を与える際、動物好きの飼育係が動物に声をかけ、頭や背中をなぜたりしながら餌を与えるのと、そういうことを一切せずに機械的に餌を与えるのとでは、動物の健康状態に差が出る。それは、声をかけたり、ボディータッチをすることで人間と動物が温かい関係を築き、それが動物の心身（？）を癒す（ストレスを減らす）からなのだそうです。昨年11月、富士通ユニティさんのラオス・スタディツアーに随行した際、村からの帰途バスが動かなくなり、近隣の民家にトイレを借りました。突然現れた、見知らぬ外国人に快くトイレを貸してくれたのは、日頃、村人が家族を超えてお互いに声をかけたり、助けあったりして、基本的に人間を信頼しているからではないでしょうか。もし私の家に突然「トイレを貸して」と外国人が現れたら・・・・（冨）

一般財団法人
民際センター

ダルニー通信　第６９号　　２０１３年３月１日発行　　発行人：秋尾晃正
一般財団法人民際センター　〒162-0801 東京都新宿区山吹町337 江戸川橋東誠ビル5F
TEL ： 03-6457-5782　　FAX ： 03-6457-5783
Eメール：info@minsai.org　　ホームページ：http://www.minsai.org/
振替口座：００１５０－０－５７６６４
表紙：ラオス　　撮影：渡部 明浩

―紙面レイアウト協力―
吉田シャショク　福岡県大牟田市小浜町1-5-17　☎0944-51-8604

コンピュータのクラス

裁縫のクラス

SPOT LIGHT

カンボジアで職業訓練の事業を計画中です！

カンボジアには港（輸出港）があり、周辺国に比べて低い賃金等の理由で様々な国の企業が投資をしています。近年、その投資が増加しており、技術を持った労働力への需要が急増しています。しかし、全国民の半分以上が1日2ドル未満の生活をしており、4ヶ月～１年の職業訓練に必要な費用（食費・家賃含め約3万円～7万円）を払うことができない人々がたくさんいます。もし中学卒業後にこの子どもたちが職業訓練を受けられるなら、訓練後は最低賃金の約2倍を稼ぐことができます。家族が助け合うカンボジアの文化を考えると、この収入で家族が貧困から抜け出すことができるかしれません。民際センターでは、中学校を卒業した子どもたちが職業訓練を受けられるための奨学金を提供するプロジェクトを計画中です。詳細は民際センター（志賀）までお問い合わせください。

自動車修理のクラス

電気技術のクラス